

こまくさ

N05(通巻138)

みやぎ「赤旗」自然・山愛好会

2023年 10月 22日

<http://www.nextftp.com/m-a-sizenyama/>

やっと暑〜い夏が過ぎたと思ったら、急に朝晩冷え込み山はもう雪の便りが。皆さん体調はいかがですか？ 今年も残すところあと2か月余。11月の芋煮会と12月の総会案内です。

☆いも煮会☆ 11月11日(土) 11:00~ 13:30頃 秋保・木の家

バスで秋保まで行き、木の家ロッジ村でいも煮を楽しみます。材料は準備されていますが、自分たちで火を起こして美味しいいも煮を作ります。河原ですので寒くない服装でお願いします。

(飲酒されない方はマイカーでも)

仙台駅 8 ; ; 56発 (8番乗り場) ⇒ 860円

長町駅西口 9 ; 12発 (駅から十字路をモール方向に渡り魚民前) ⇒ 720円

長町南 9 ; 16発 (4番乗り場)

湯元 9 ; 50着

参加費 ; 3200円 (芋煮、飲み物代など) バス代は各自負担です。

帰りは一太郎の湯 (800円) に寄るもよし、散策もよし。現地解散とします。

湯元発 (長町経由) 14 ; 01 15 ; 56

申し込み締め切り ; 11月1日



総会のご案内 12月2日(土) 13:30~15:30 蛸薬師会館

下記のように総会を行います。今年を振り返り次年度計画を相談します。別紙アンケートを同封しますので、ファックス等で返信願います。

会費は300円です。 (資料、お茶代)

*蛸薬師境内に車駐車できます。1台300円。

<山行報告>

尾瀬ヶ原・尾瀬沼ハイキング (1日目、8月5日)

参加者19名は矢野さんの見送りの中出発。皆さん生き生きした表情。トイレ休憩をとりながら鳩待峠に着く。さっそくおにぎりにばくつき満足する。腹ごしらえの後は木道歩き。黙々歩きながらも楽しめることを見つける。大木のいろんな姿、木漏れ日の美しさ、時々聞こえるせせらぎの音や鳥のさえずり。行き交う人も多く「こんにちは」のこえがけ等々。山の鼻に着いた途端雷雨。慌ててカッパを着るが、すぐビジョ濡れに。雨は止まないの歩き出す。ぬかるみを歩くと靴はドロドロになるが木道はそんな心配はなくありがたい。草原はニッコウキスゲは終わり、秋の吾亦紅や河桔梗がポツリポツリと咲いていた。



沼には^{ヒツシクサ}末草が白い小さな可憐な花をつけていた。17時過ぎに燧小屋に着く、夕食後、懇親会で近況を語り合う。足を痛めている人が多いが夫々対処を工夫しているのはスゴイと思った。

(2日目、8月6日)

昨日の雷雨で足場が悪いため燧ヶ岳登山は中止になり尾瀬沼コースに合流。6時半小屋を出る。私は平坦地の散策かと思っていましたが沼に着くまで、アップダウンのある林で登山気分を味わい満足する。笹竹がビッシリと生い茂っていて他の植物を侵食しないか気になった。小屋のおにぎりは鮭、昆布、梅干しが入っていて、とてもおいしかった!! ひと休みの後、炎天下を汗をふきながら沼山峠を目指す。二日間が一番きつい道だった。シャトルバスで御池へ。そして帰路に就く。世話人の皆さん、素晴らしい計画ありがとうございました。(山脇 由美)

栗駒山山行記・・・9月24日(日)、参加19名

いわかがみ平・須川温泉からの5ルートのうち「秣岳コース」を除く4コースを揶揄を込め「短単コース」と称する人がいる。距離の短い変化に乏しいコースだと主張する。私は揶揄はしないが正鶴を射た指摘だと思っている。

樹林帯の歩きがないのが「短単」の原因で、それ故紅葉や高山植物にいと簡単に会える。しかし樹林帯こそ動植物・きのこ・沢などが季節ごとに躍動する自然の宝庫だ。これの無い山歩きは味気なく違和感を覚える。そして体力・気力などをさして消耗しない登山は、感動や達成感は体に充満せず、手にした感激は体をアツという間に素通りする。私の体力・気力はとっくにピークアウトしているが、それでも素っ気ない山登りは疑問に感じる。

閑話休題、澄み渡る秋晴れの中、ほぼ予定時刻にいわかがみ平を出発。灌木帯のちょっとぬかるんだ溝道をしばらく行くと「しょうじょうばかま」が目止まった。けっこうある。沢筋では「あきのきりんそう」もけっこう目に映る。標高1200mの地でこれらを目にするのは初めてだ。「あきのきりんそう」は高山植物でしょうか?。我妻氏発見の夏キノコの「ちちたけ」にも驚いた。きのこは灌木帯では成長しない。宮城の山では1,000mがキノコの限界点だ。場違い、時期違いも甚だしい。長引く異常高温でキノコがすっかり狂っている。

東栗駒山山頂からの栗駒山山容の眺望は圧巻。この山容の紅葉を「神の絨毯」と絶賛するのも宣なるかなと納得。佐藤、堀野御両人が時折交わす高山植物の話に耳傾けつつ登る。落花の「いわかがみ」を教わったが、枯れた棒きれの姿だった。コース中の唯一の急登を乗り切り予定時刻に山頂着、切れる青空の東から南の同じ高さに、同じ凸凹の同じ大きさの雲が一直線に連なっていた。奇景だ。

昼食後、灌木の茂る展望の余りないだらだら坂をくだる。産沼からは低木帯で栗駒山山頂周辺をちょっと目にできた。ずんぐりむっくりの丸山でこれが栗駒かと思う。なんの変哲もない道が続き、二つの沢抜けがわずかに気分転換となる。名残ヶ原の南端では左山斜面から10本近くの湯煙?が勢いよく立ちあがっていた。予定を30分程オーバーで下山。露天風呂に入り帰仙。(篠崎隆夫)

買って下さい・・・もちろん無料

10年ほど前に自費出版した紀行文「県境の山々」がまだ80冊程残っています。処分しようと思っています。ぜひ引き取ってお読み頂ければ幸いです。ご希望の方は12月の総会時に。(篠崎隆夫)

—事務局：矢野 090-3643-0100 022-246-1346 (FAXも) —

次年度山行希望アンケート

<2024年山行希望> 出来れば希望する季節、月、お薦め理由などあれば

<30周年 記念行事について> … 1993年4月発足総会でした …

昨年が30周年でしたが、選挙の年だったのでゆっくりできるよう次年度に延ばしました。

◎ 記念山行希望 ⇒ 日帰り 1泊 2泊

どこか希望のところは？（

◎ その他・希望すること

<会への要望、意見など>

11月10日までお返事お願いします。FAX、メール、郵送など

お名前 _____